



爽快 早朝ランナー達 !!



6月半ば頃から、江南や川本、寄居の道ばたでは藪萱草（ヤブカンゾウ：八重咲き）が、吉岡の八幡坂では野萱草（ノカンゾウ；一重咲き）が、オレンジの花を咲かせているのを目にします。長瀬辺りでは、今が旬です。『忘れ草』と呼ばれ、初夏を告げる花として、1000年以上前の奈良時代から親しまれてきた里花です。八幡坂の野萱草は、今年はちょっと元気がありませんでした。原因は不明ですが、気に掛けていこうと思います。（裏面参照）



八幡坂のノカンゾウ

さて、早朝5時台の吉岡の里では、決まった時間に決まった人が犬の散歩やウォーキングをしています。馴染みの人と出会うと、「今日も暑くなりそうですね。」と挨拶を交わします。ほのぼのしています。6時台には、駐在所前の大学通りを颯爽（さっそう）と駆け抜けるランナー達を目にします。その走る姿は、爽快です。清々（すがすが）しいです。何だか元気をもらいます。彼らは、立正大学駅伝部です。

立正大学は、1580（天正 8：信長の時代）年に設立された日蓮宗僧侶（にちれんしゅうそうりょ）の教育機関である飯高檀林（いいだかだんりん：千葉県）が 1872（明治 5）年の学制発布により廃壇し、新たに東京芝に小教院を開学（この年を創立年とする）した 444 年もの歴史ある学校です。2022（令和4）年、開学150年を迎えました。駅伝部は、この記念事業として新設されました。

熊谷キャンパスは、1966（昭和 41）年に開設されました。当時、吉岡には、幼稚園から大学まですべての教育機関がそろっていました。近くにある『国営武蔵丘陵森林公園』は、1966 年に設置された「明治百年記念準備会議」で構想され、1974（昭和 49）年に開園しました。今年で開園 50 周年を迎えます。東武東上線の『森林公園駅』の開設が 1971 年、『熊谷東松山有料道路』の開通が 1974 年です。これらの施設がなかった時代は、まさに『となりのトトロ』の世界です。手入れのされたアカマツや雑木林の中、菅谷（すがや）県道と呼ばれていたジャリ道をボンネットバスが走っていました。原新田の水場関谷（せきやつ）の水も清涼でした。吉岡の風景や産業、生活様式のエポック（新しい時代や時期）は、バブル直前の1970年代半ばにあった。これは、実体験からも実感できます。おそらく日本中がそうだったんだろうと想像できます。

長い間、立正生は 1・2 年生が熊谷キャンパス、3・4 年生が品川大崎キャンパスで学んでいました。吉岡には学生アパートや下宿が沢山あり、住民との交流も身近でした。その後の大学「都心回帰」の流れの中で、4 年間東京で学ぶ学部と熊谷で学ぶ学部に分かれました。熊谷キャンパスには社会福祉学部や地球環境学部などがあり、ボランティア活動が盛んです。吉岡里山活動にも『地球にやさしい会』の学生が参加しています。

また、運動施設が充実し、強化指定されたラグビー、野球、サッカー部の活動拠点です。そこに駅伝部が加わりました。挑戦は始まったばかり、昨年度の箱根駅伝予選会は 32 位でした。TV に登場するまでには、まだまだ高い壁があります。いつの日か、「あっ!!この子、朝走ってた少年だ!!」と指させる日を夢見て、心の中で応援したいと思います。Fight~!! 立正駅伝部!!



7月の里山活動は、14日（日）が朝から梅雨空のため中止となりました。8月は休会で、次回は9月です。お天道様（おてんとうさま）にはかなわん、ぼちぼち頑張りましょう。

次回活動日（8月は休会）

9月8日（日） 9:00~

里山整備作業予定（吉岡中駐車場集合）